第二講・文学的文章②

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ことしも、いつのまにか、百羽（ぱ）ちかくのツルが、やってきて、空の帆（ほ）かけ船のように、朝やけの大空を群（む）れとんだり、クルクル、クワアとラッパのような声をひびかせたりしはじめました。

太郎（たろう）と二郎（じろう）は、そのツルたちを観察するためにつくった、わら小屋の中にもぐりこみました。

小屋といっても、わら小積（こづ）みに、にせてつくった小さいもので、ふたりで、その中にはいりこむと、からだを動かすのも、きゅうくつなほどのものであります。

小屋の前とうしろに、しょうじの一こまほどのあなを二つずつあけておきました。

①それが、ふたりでツルたちの動作をのぞき見するまどなのです。

小屋の中にはいると、わらの新しいにおいが、ぷんぷんしました。はじめての経験（けいけん）をするということは②むねがわくわくするものです。

それに、この小屋は太郎と二郎とのふたりでくふうしてつくったものであるので③いっそうふたりの心をはずませました。

ふたりの兄弟は、小屋の中にあつくしきつめた、わらすべの上にすわると、たがいにかたをくんで、顔を見あわせて、にっこりとわらいました。

そして、出がけに、ニワトリ小屋からもってきた、生みたてのたまごを、一つずつポケットから出すと、糸切り歯で、両はしに、チョンチョンとあなをあけ、顔をあおむけて、イタチのように、チューチューとなまたまごをすすりました。

④戦闘準備（せんとうじゅんび）であります。

（椋鳩十（むくはとじゅう）『ツル帰る』）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　――線①「それ」とは、(1)どのようなもので、(2)何をするためのものですか。

(1)

(2)

問二　――線②「むねがわくわくするもの」とありますが、なぜ「わくわく」するのですか。

問三　――線③「いっそうふたりの心をはずませた理由として最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　ツルがクルクルと鳴くのがおもしろかったから。

イ　ふたりで作った小屋で、初めてツルを観察するから。

ウ　太郎と二郎のふたりで初めて遊びにきたから。

エ　わらの新しいにおいが心地(ここち)よかったから。

問四　――線④「戦闘準備」として、ふたりは何をしましたか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　顔を見あわせてわらった。

イ　ツルを観察した。

ウ　なまたまごをすすった。

エ　かたをくんだ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

——気圧（きあつ）のせいで、耳がへんなんだ……。

サトルはつばを飲みこんだり、鼻をつまんで息をむりやり吹（ふ）きだしてみたりする。プールに深くもぐって耳がへんになったときにも、おなじようにした。

ガサッと音がして、まわりの音がちゃんときこえるようになった。エンジンがゴーゴーとうなっている。うるさいけれど、耳につまっていたものがとれたみたいで、気持ちがいい。

「雲の層（そう）からでると、窓（まど）のそとに真っ暗な空がひろがった。機体が、すこしななめにかたむく。かたむきながら、すべるようにおりていく。銀色の*フラップが、めくれるように上にあがった。

宇宙（うちゅう）へとつながる夜空の下に、光のじゅうたんをひろげたような街の明かりが見えてきた。

オレンジ色の光の線と、星のような緑色の光の点（てん）滅（めつ）。そのあいだをぬって動く赤い光の帯は、道を走る車たちのテールランプだろうか。

——なんて大きな街なんだ。まるでＳＦ（エスエフ）映画（えいが）の未来都市みたいだ……。

サトルは①口を半開きにしたまま、目をうばわれている。②光のじゅうたんの、はしからはしまでが見わたせない。真っ暗な空の下ぜんぶがキラキラ光っている。飛行機はつばさをしならせて、星雲の中心にすいこまれるようにして高度を下げていく。

サトルは、さっきまでサッカーのゲーム機をピコピコやっていたが、いまは、その小さなボタンを押（お）すこともわすれて、目の下のまぶしい世界をのぞきこんでいる。

③光の海がぐんぐん近づいてくる。明かりのついたたくさんの窓がならんだビルや、高速道路が自分の目の高さとおなじになり、オレンジや緑の光が線になって、うしろに飛んでいく。

体がうくような感じがして、ドンッとおしりが下からつきあげられた。着陸すると、四つのエンジン

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

がものすごい音をだして逆噴射（ぎゃくふんしゃ）した。飛行機のスピードが見るまにおそくなる。窓のそとのけしきが、ゆっくりと流れていく。

　飛行機はまだ滑走路（かっそうろ）の上をすべっているのに、となりの席のお父さんは、もうシートベルトをはずしてしまった。ほかの人たちはまだじっとすわっているのに、お父さんだけがそわそわして落ちつきがない。

　飛行機に乗っているあいだじゅう、④ずっとそうだった。分厚（ぶあつ）い書類のたばをめくったり、ノートパソコンのキーをカチャカチャたたいたりして、ともかくじっとしていなかった。

　サトルは、なにもしないでぼーっとしているお父さんを見たことがない。だまって遠くを見ていたり、目を閉じてなにかを考えているようなお父さんを見たことがない。いつもなにかしていて、いつもいそいでいる。いつも「いそがしい、いそがしい。」といい、そして、ときどき「つかれた。」とため息をつく。だからサトルは、そんなお父さんとちゃんと話をしたことがない。

――だれのお父さんも、みんなおなじようにいそがしいのだろうか。それとも、ぼくのお父さんはとくべつなのだろうか……。

　サトルは、ときどきそんなことを考える。

（戸井十月（といじゅうがつ）「カチーナの石」）

＊フラップ＝飛行機の主翼（しゅよく）に付いている小翼。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　ここでは、どんな場面が中心に描（えが）かれていますか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　サトルの乗った飛行機が飛び立とうとする場面

イ　サトルの乗った飛行機が降下し着陸しようとする場面

ウ　飛んでいく飛行機をサトルが見ている場面

エ　サトルがＳＦ映画を見ている場面

問二　――線①「口を半開きにしたまま、目をうばわれている」サトルの様子を表すことばとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　失望　　**イ**　不安

ウ　無関心　　**エ**　夢中（むちゅう）

問三　――線②「光のじゅうたん」、③「光の海」は、ともに何をたとえた表現ですか。文中から五字で書きぬきなさい。

問四　――線④「ずっとそうだった」とありますが、どんな様子だったのですか。文中から七字で書きぬきなさい。

問五　『よりあとの部分を、サトルの意識の向いている対象に着目して二つに分けるとすると、後半はどこからですか。その初めの五字を文中から書きぬきなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　**問五**で分けた前半と後半の場面について、次の問題に答えなさい。

①　前半の場面では、サトルの意識は何に向けられていますか。文中から五字以内で書きぬきなさい。

②　後半の場面では、サトルの意識は何に向けられていますか。文中から五字以内で書きぬきなさい。

③　②で答えた対象に対するサトルの気持ちを、五字以内で答えなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　文学的文章②

一題目

問一　(1)　(例)小屋の前とうしろに二つずつあけた(しょうじの一こまほどの)あな

(2)　(例)ツルたちをのぞき見するためのもの

問二　(例)はじめてツルたちの動作をのぞき見することができるから。

問三　イ

問四　ウ

二題目

問一　イ

問二　エ

問三　街の明かり

問四　落ちつきがない

問五　飛行機はま

問六　①　街の明かり

②　お父さん

③　(例)さびしさ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。